

0160 | コミュニケーション論

2 単位（通信授業 2 単位）

諸橋泰樹講師

授業の概要と目標

本科目では、以下の二つの学習活動を通して日常生活の場におけるコミュニケーション現象・問題の解明が目指される。

- 1) 私たち自身がそのただ中にある近代化過程に注目し、そこで重視される、ないし有力となるコミュニケーション活動の歴史性を、それに先立つ、いわば人類史とともに営まれてきたコミュニケーション活動との対比において考える。
- 2) 良さにつけ悪しきにつけ、私たちの日常コミュニケーション活動のうちに深く組み込まれているメディア技術のもつ意味を考える。

課題の概要

○通信授業課題 1

「自分の身の回りのコミュニケーション現象を省察する」というテーマで、2000 字程度のレポートにまとめること（単なる感想文ではなく、美術・デザインに携わる学生として、事例のもつ意味を深く問うものであり、学説をあてはめる工夫などが望まれる）。

○通信授業課題 2

教科書等を参照しつつ「人間コミュニケーションにおける文明技術の役割」というテーマで、2000 字程度のレポートにまとめること（教科書の内容をなぞるのではなく、それを発展させた内容となることが期待される。SNS について論じるものが多いが、「ありきたり」な指摘に終わらない工夫がほしい）。
*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

授業は、教科書に従い、コミュニケーションの理論を考究する。教科書の目次は以下の通り。

- 第 1 章「人間コミュニケーションの根底にあるもの」
- 第 2 章「人間コミュニケーションをとらえる視点」
- 第 3 章「無媒介的コミュニケーション世界とその変容」
- 第 4 章「近代コミュニケーションの諸相」
- 第 5 章「媒介の時代をとらえる」
- 第 6 章「テレビ電話のメディア特性を探る」
- 第 7 章「マスメディアの時代をどうとらえるか」
- 第 8 章「メディア融合時代の到来」

成績評価の方法

◎科目試験

教科書の内容を中心に出题する。用語・学説や現象について記述式で解答してもらう。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：小林宏一『コミュニケーション論』（武蔵野美術大学出版社 2002 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

その他

自らの生活体験をアカデミックな参考文献などによって理論化し、それをきっかけにして更に自らのコミュニケーション観を拡張していく姿勢が、求められる。